

第4回「地域フォーラム」概要

開催テーマ 「協働と連携のまちづくり・奈良モデル」

日時 平成29年12月2日(日)9時30分～11時30分

会場 天川村山村開発センター

資料説明	荒井奈良県知事
<p>急速な高齢化、人口減少が進む奈良県では、三つの課題を抱えています。第一に、若者が地域内で働く場の創出、第二に、高齢者が地域で医療・介護のサービスを十分に受けられる環境の整備、第三に、女性が働きやすく、結婚しやすく、子育てしやすい地域づくりです。これらの課題に立ち向かうため、奈良県では、市町村同士または県と市町村の連携・協働を強化する奈良モデルの取組を進めています。</p> <p>具体的な取組として、南和地域では、三つの公立病院を、急性期・回復期を中心に担う一つの病院と、回復期・慢性期を担う二つの病院に再編整備しました。へき地の診療所との連携も進んでいます。</p> <p>また、移動ニーズに応じた交通サービスの実現については、中南和地域のバス25路線45系統について、バスカルテ(客観的な指標)を活用しながら、個別の路線毎に係関係者間で協議し、廃止すべき路線の廃止や、連携コミュニティバスで代替すべきものは代替するなどの再編を行いました。</p> <p>他にも、消防の広域化、ごみ処理施設の広域化、道路インフラの点検委託、収税強化などの分野で連携・協働に取り組んでおり、さまざまな成果が出ています。医療分野の成果として、がんの死亡率の減少幅がこの10年間で全国1位になりました。がん死亡率の全国順位も34位から9位に改善されています。</p> <p>今後も、県と市町村の連携・協働を一層推進し、県域水道の効率化や地域包括ケアシステムの構築、国保の県単位化、まちづくりなどに取り組んでいきたいと考えています。</p>	

資料説明	太田五條市長
<p>五條市では、県南部の玄関口として、まちづくりを進めています。</p> <p>五條中心市街地地区では、広域から観光客を呼び込む玄関口の機能の構築、五條病院周辺地区では、地域の健康増進を目的とした健康交流の促進、五條西地区では、大規模な県広域防災拠点の整備やスポーツを通じた地域の活性化などに取り組んでいます。</p> <p>今後も市民の皆様や来訪者にわかりやすく、住みやすいまちづくりを進めたいと思います。</p>	

資料説明	杵本下市町長
<p>下市町では、元気印集落事業として、地域内での話し合いや視察などの経費を助成する支援事業と、直売所の整備などの具体的な取組の経費を助成する推進事業を実施しており、地域主導での取組が進んでいます。</p> <p>平原地区では、本格的ピザハウスを、才谷地区や草谷地区では、空き時間に集会所をゲ</p>	

ストハウスとしてオープンしています。

今後は、これらの取組の規模拡大や他地域への広がりを進め、更なる地域力の向上を目指します。

資料説明	辻村黒滝村長
<p>黒滝村では、若年層の転出を防ぐため、出産祝い金・入学祝い金の支給や、住宅取得補助制度など、子育て世代への支援を行っています。</p> <p>住宅取得補助制度では、住宅取得費の助成に加え、住宅金融支援機構と連携して住宅ローンの補助を行っています。</p> <p>今後は、道の駅を拠点に、観光施設の充実を図り、交流や産業の活性化につなげるとともに、寺戸地区内を拠点に、村全体に活力を生み出すまちづくりを進めていきたいと思いをします。</p>	

資料説明	車谷天川村長
<p>天川村では、林業活性化のため、天川村バイオマス利用促進事業を実施しており、山に放置されている木をお持ちいただいた村民の皆様は、地域振興券を交付しています。集めた木を天の川温泉の薪ボイラーの燃料として使用することで、重油にかかる費用を削減できました。</p> <p>また、天川村森林塾を開催しており、今年度は 25 名の方に参加いただきました。将来的には、林業従事者の獲得や移住・定住の促進につなげていきたいと思いをします。</p>	

資料説明	角谷野迫川村長
<p>野迫川村では、過疎対策や観光客の誘致を図るため、国・民間団体との林業施設連携や、毎年 7 月に実施している「平維盛の大祭」など、イベント開催時における各種団体との連携に取り組み、村外からも多くの方々に来ていただいています。また、小・中学生の学力向上のため、奈良女子大学と協働した「奈良女塾」を開講しています。今後も、国、県、市町村、各種団体と連携を図り、住みやすい村づくりの推進や地場産業の振興に努めたいと思いをします。</p>	

資料説明	更谷十津川村長
<p>少子高齢化の進む十津川村の谷瀬地区では、平成 15 年の一町一村まちづくり構想事業で、県、大学、スローライフジャパンなどが集まって寄合を開き、集落活性化のためのさ</p>	

まざまな意見を出し合いました。

それらの意見をもとに、散歩道や移住体験施設の整備に取り組み、この地域に住みたいという方も増えてきました。

今後も、いつまでも住み慣れた地域で、住みよい村づくりを展開していきたいと思えます。

意見	荒井奈良県知事
<p>人口減でも、幸せに暮らせるパターンを探ることが大切です。そのために、「住んでよし」、「働いてよし」、「訪れてよし」の地域づくりを目指す必要があります。</p> <p>「住んでよし」では、健康で生きられるまちづくりが、「働いてよし」では、この地域独自の働く場所づくりが大きな目標になります。</p> <p>また、「訪れてよし」では、インバウンド観光を取り入れることがこの地域の力になるのではないかと思います。</p>	

質疑応答①	<p>京奈和自動車道の供用が開始し、五條市が通過点になることが懸念されますが、五條市のまちづくりに、どのようなビジョンをお持ちですか。(五條市在住者)</p>
<p>(太田五條市長)</p> <p>五條インターに道の駅を整備し、健康長寿のため、道の駅を拠点とするサイクリングコースなどもつくりたいと考えています。</p> <p>(荒井奈良県知事)</p> <p>通過点にならないためには、魅力創造につきます。魅力創造には、「コト」消費、「コト」観光が重要で、「コト」があると毎年でも訪れたいと思います。また、南部地域で泊まってもらうためには、温泉やおいしい食事、アクセスも重要です。</p>	

質疑応答②	<p>南部地域の市町村にとって参考になる特色のある取組事例があれば教えてください。(黒滝村在住者)</p>
<p>(荒井奈良県知事)</p> <p>まちづくりについて、それぞれの市町村で工夫して、独自に取り組んでおられますが、近隣の市町村との連携がポイントであり、県ではその連携を助けることを心がけています。</p> <p>まちづくり協定の取組を始めてから、県、市町村で意見を出し合う機会が増え、と</p>	

でも良い刺激になっています。

(辻村黒滝村長)

黒滝村でも、県とのまちづくり協定を今年度中に結びたいと考えていますが、県に頼るばかりではなく、自立したまちづくりを進めていきたいと思います。

質疑応答③

山間の過疎地域では、人材不足、地勢条件などの状況があり、各方面の協力が不可欠かと思いますが、民間活力にどのようなことを期待しますか。(野迫川在住者)

(角谷野迫川村長)

野迫川村は、地理的条件は悪いですが、現状も大事にしながら、村を知ってもらうことから始めたいと思います。

(荒井奈良県知事)

行政が民間を補完するのか、民間が行政を補完するのか、民間活力の形を追求する必要があります。観光分野では、モニタリングしてサービスの質を評価し、パフォーマンスを改善することが大事です。

(車谷天川村長)

観光地として、毎日の評価をいかに受け止めるかが重要です。

(杵本下市町長)

下市町では、割り箸づくりなど、地場産業の後継者不足が課題です。

(荒井奈良県知事)

割り箸も良いですが、吉野杉のお椀(わん)が大変良いので、新商品を作るのもよいかもしれません。

(更谷十津川村長)

十津川村では、観光や産業の振興において、道路整備が重要です。道路整備が進むと、さまざまな分野の連携も進むと思います。

(荒井奈良県知事)

産業誘致、生活、まちづくり、観光など、目的をもった道路づくりが大切です。

<当日回答できなかった質問に対する回答> ※回答は奈良県のみ

質問①	下市町では、まちづくりに公民館などを活用していますが、まちづくりに関するソフトやハードの補助金にはどのようなモノがありますか。(下市町在住者)
<p>県では、まちづくりに前向きでアイデアや熱意のある市町村において、その方針が県のまちづくりに関する方針と合致するプロジェクトについて、県と市町村でまちづくり連携協定を締結し、協働でプロジェクトを実施しています。</p> <p>まちづくり連携協定は「包括協定」、「基本協定」、「個別協定」と段階に応じて協定を締結しながら、プロジェクトを進めています。その内、「個別協定」の段階では、ソフト事業やハード整備事業の内容について、県と市町村が合意した場合に、県が市町村に対し一定の財政的支援をすることとしています。</p> <p>具体的な支援内容については、賑わいづくりイベント等のソフト事業に対して市町村負担額の1/2を、まちづくりの拠点となる施設等のハード整備に対して市町村負担額の1/4を県が負担することとしています。</p> <p>県では、今後もまちづくりに前向きで熱心な市町村を支援するため、積極的にまちづくり連携協定を進めてまいります。</p>	

質問②	今後の村内の経済活性化に向けた取組についてどのようにお考えですか。(天川村在住者)
<p>修験道の聖地大峯山を背景とした洞川温泉では、修験者の減少にも関わらず、時代の流れに対応した関係者のご努力と創意工夫で、奈良県内でも有数の活力ある観光地として、また、宿泊施設集積地として頑張っていただいております。加えて、豊かな自然環境は、多くの人々を魅了し、登山、キャンプを楽しむ人々が多く訪れます。</p> <p>一方で、かつて村民の多くが従事していた林業や木材産業は、長引く材価の低迷と、保育作業の減少の影響から就労機会が大幅に減少し、人口流出の大きな原因にもなっております。また、村民の高齢化も深刻化する状況下、若者が安心して働ける場所を村内に確保することが、活力ある村の持続にとって大きな課題となっております。</p> <p>これらを踏まえ天川村の振興方針としては、</p> <p>①まず、観光面ではトレイルランニング、えんがわ音楽祭などのスポーツ芸術イベントの開催による泊・食・イベントが一体となった魅力ある観光地づくりに取り組んでいます。</p> <p>②次に林業面では、村で「一般社団法人天川村フォレストパワー協議会」が立ち上げられ、村民から間伐材を地域振興券で買い取るという革新的な取組が始められており、買い取った間伐材は、村内温浴施設の薪ボイラーで重油に代わる地元産エネルギーとして活用し、地域振興券で地元消費を促すなど、村内経済の好循環を作り出しています。この制度を今後より一層拡大することで、村内経済の活性化に大きく寄与するものと考えてい</p>	

ます。

③加えて、天川村の気候風土や環境等の強みを活かした持続可能な新たな産業を興すことも重要だと認識しており、現在試験栽培に取り組んでおられる四季成りイチゴの大産地化に向けた取組のほか、天川村ならではの特産品開発を進めてまいります。

④さらには、シェアオフィス西友を活用したプラネットオフィスの誘致活動や、奥大和アカデミー開講による関係人口の増加に向けた取組など、移住交流推進のための事業の積極的な実施などを考えております。

今後もこのような取組を継続して行い、村の経済活性化を支援させていただきたいと考えております。

<p>質問③</p>	<p>十津川村のような、過疎高齢化が進む村では、集落の維持が困難になってきており、例えば集落で利用している「飲料水」の水源の維持等が出来ないなど、日常生活にも支障が出る恐れがあります。奈良モデルの考え方に基づき今後、様々な事業等が行われると思いますが、地域の利便性には、都市部と山間部では、ある程度の差が出ることはやむを得ないと考えますが、出来るだけ同じような生活水準を維持できないかと思いますがどのようにお考えでしょうか。(十津川村在住者)</p>
<p>例えば、社会保障分野の奈良モデル（医療・介護分野一体の取組）では、山間部にお住まいの方も必要な医療を受けていただけるよう、県南部の医療提供体制を再構築（平成28年4月、南奈良総合医療センター新設、吉野病院改修。平成29年4月、五條病院改修）しました。そして、南奈良総合医療センターを中心とした病院・診療所間の連携、病院間の連携体制の構築を進め、切れ目のない医療提供体制を構築しています。さらに、県南部地域において、在宅医療・包括ケア体制整備プロジェクトを推進しています。</p> <p>また、国民健康保険の保険料が「同じ所得・世帯構成であれば、県内のどこに住んでも保険料水準が同じ」になるよう、県民負担が公平になるように努めています。</p> <p>また、水道分野において、人口減少にともなう水需要の減少、更新時期が到来する浄水場や水道管への投資費用の増大、職員不足による技術力の低下など、水道事業が抱える課題は全国共通ですが、特に山間部等の簡易水道事業など小規模な水道ではより深刻な問題となっています。</p> <p>このため県では、簡易水道などの小規模な水道を持つ村に対して、施設の維持管理や水質管理の技術支援や、経営改善策の提案をこれまで行ってきました。</p> <p>今後、これらの実績も踏まえて、より広域的な支援体制の構築や支援母体となる組織に関して各村とともに検討を行い、簡易水道などの小規模な水道においてもこれからも安全・安心な水を提供できるようにと考えています。</p> <p>その他、消防の広域化や、道路インフラの長寿命化に向けた支援、コミュニティバスの</p>	

共同運行、情報システムの共同化等、山間部を含めた団体の行政サービスの維持・向上に向けた取組を奈良モデルで進めています。